

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	<p>1 各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 基礎的事項については概ね定着しているが、活用問題に課題がある。算数では、特に図形領域、量と測定領域の理解がやや劣る。国語・算数ともに文章における表現に苦手意識が強い。</p> <p>2 授業改善の検証指標に照らし合わせて評価した状況 充実した言語活動の展開（自分の考えを書き、伝え、互いの考えの違いに目をむけ、よりよい考えを生み出していく授業） 児童生徒会活動、学級会等特別活動も含めた、自分の思いを表現する場、培った表現力を生かす場の設定・充実。1～6年の学力の伸びに比べ、7～9年が十分でない。</p>	<p>1 各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 家庭学習については、概ね実施できているが、学年にばらつきがあることと、学習時間が不足している子どもが固定化している。 学習委員会との連携もあり学習5原則を中心とした学習規律はほぼできている。ただし学力の問題から生じる姿勢の乱れや私語が一部の生徒に見られる。</p>
指導の状況	<p>1 組織的な授業改善の取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習5原則を基本にした授業規律の徹底。落ち着いた学習環境づくり。 ・めあてや振り返りのカードを活用して、1時間完結型の授業を展開する。 ・言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力等を伸ばす。 <p>2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通しての「チャレンジ」学習や単元テストを実施する。昼休み、放課後、長期休暇等を利用し補充学習を実施する。 ・朝学習の時間を活用し、基礎事項の繰り返し学習を実施する。家庭学習の定着をめざし、個に応じた指導をする。 	

学力に関する達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な学習習慣の形成を図る。（学習5原則 守れた90%以上） ○「チャレンジ」実施による基礎・基本の定着を図る。（国語、算数・数学、英単オリンピック等での80%以上合格） ○単元テスト国算理で、1～6年生は、80点以上を75%以上、40点未満を15%以下にする。 ○単元テストを適時実施し、その結果から学習方法をふり返らせることで、定期テストで70点以上を65%以上、40点未満を15%以下にする。 ○見通しを持って臨み、まとめと振り返りで定着する授業を実施する。（わかりやすい80%）
------------	---

